

3 学会統合に関する会員アンケートの結果報告

日本繊維機械学会 会長 井上 真理

いつも一般社団法人日本繊維機械学会の活動に対し、多大なるご理解とご支援を頂戴し、誠にありがとうございます。

一般社団法人日本繊維機械学会業務執行理事では、昨年度9月の一法人化否決を受け、今後さらに魅力的で会員の皆様のお役に立てる学会にしていくため、アンケートを実施させていただきました。ご協力いただきましたアンケートの結果をご報告いたします。

1. 会員アンケート実施概要

(1) 実施概要

本アンケートは次のとおり実施した。

実施期間：2022年11月25日から2023年1月16日

実施方法：Microsoft Formsを用いた無記名アンケート

対象：正会員（2022年11月25日時点638名）及び学会関係者（正会員でない委員会等参加者）

回答数：171件

(2) 回答者の属性について

回答者の属性をもとに分類した結果をまとめると、次のようになった。

まず回答者の会員種別を分類すると、「会員（正会員、名誉会員及び法人会員）」からの回答数165件、「非会員」からの回答数6件であったことから、回答者の約96%が本会会員であった。その内、「正会員（名誉会員含む）」からの回答数は129件あり、アンケート実施時点での正会員数が638名であったことから、「正会員（名誉会員含む）」の回答率は20.2%であった。

次に、所属別に分類すると、企業に所属する回答者が47.4%と約半数を占めることとなった。なお、「その他」と回答した方の所属は技術士や法人団体、退職者との回答があった。

回答者の年齢については、「40歳～49歳」「50歳～59歳」「60歳以上」がそれぞれ約30%ずつとなり、回答者全体の約90%を占めた。

① 回答者の会員種別

会員種別	人数	割合
正会員、名誉会員	129名	75.4%
法人会員	36名	21.1%
非会員	6名	3.5%
総計	171名	100.0%

② 回答者の所属

所属	人数	割合
企業	81名	47.4%
教育機関（大学等）	45名	26.3%
公設試験研究機関・公的機関	26名	15.2%
その他	19名	11.1%
総計	171名	100.0%

③ 回答者の年齢

年齢	人数	割合
29歳以下	1名	0.6%
30歳～39歳	17名	9.9%
40歳～49歳	49名	28.7%
50歳～59歳	53名	31.0%
60歳以上	51名	29.8%
総計	171名	100.0%

④ 回答者の所属学会（複数回答可）

所属学会	人数	割合
日本繊維機械学会	165名	96.5%
繊維学会	76名	44.4%
日本繊維製品消費科学会	64名	37.4%
上記3学会には入会していない	2名	1.2%

2. 臨時総会について

(1) 質問

臨時総会の結果について、皆様のお考えに近いものの、賛同できるものを選択してください。

(2) 結果の概要と詳細

臨時総会の結果について質問したところ、「統合不成立になった結果は残念だ。」の選択割合が74%と最も多く、「このままの状況では三学会とも先細りなることが予想され、心配だ。」「結果的に、繊維学会で否決されたが、協力できることは協力しあうことを検討したらどうか。」と今後の学会への影響について懸念される意見が約半数あった。

項目	選択割合
統合不成立になった結果は残念だ。	74%
このままの状況では三学会とも先細りなることが予想され、心配だ。	53%
結果的に、繊維学会で否決されたが、協力できることは協力しあうことを検討したらどうか。	53%
経済的合理性が見込まれるので統合に賛成していた。	47%
国際化の部分では、ある程度数規模が必要なので今後も統合することを検討すべきである。	40%
日本繊維機械学会での一法人化賛成多数は、今の状態からの変革を求めていることである。	29%
この結果が会員にどう映るのか心配である。	18%
日本繊維機械学会のみで活動していけばよい。	9%
統合不成立の件にはもう言及はしたくない。	3%

全9項目の選択肢は、「統合賛成の動機(3項目)」、「統合不成立に対する心情(4項目)」、「統合不成立で懸念される影響(2項目)」に分類し、以下に結果を解説した。

① 統合賛成の動機

選択肢中順位	肯定的項目	選択割合(%)
4	経済的合理性が見込まれるので統合に賛成していた。	47
5	国際化の部分では、ある程度数規模が必要なので今後も統合することを検討すべきである。	40

6	日本繊維機械学会での一法人化賛成多数は、今の状態からの変革を求めていることである。	29
---	---	----

【解説】

多くの会員が、「経営的な合理化」、「国際化の推進」、「現状からの変革」の観点から、3学会の統合に賛同したことがうかがえる。また、多くの会員は、統合が叶った場合、様々な観点から組織のあり方や個別の活動の見直しが行われることを期待しており、新学会が現在の社会情勢や産業界のニーズを踏まえた組織へと改革されることを求めているものと推測される。

② 統合不成立に対する心情

選択肢中順位	学会独自の努力に期待	選択割合(%)
1	統合不成立になった結果は残念だ。	74
7	この結果が会員にどう映るのか心配である。	18
8	日本繊維機械学会のみで活動していけばよい。	9
9	統合不成立の件にはもう言及はしたくない。	3

【解説】

統合案が不成立となったことに対して、「一学会としてやっていけば良い」と受け止めている会員も若干名はいるものの、大多数の会員は統合不成立を「残念なことだ」と受け止めている。また、変革への機運が停滞することを心配する意見も見られた。

③ 統合不成立で懸念される影響

選択肢中順位	否定的項目	選択割合(%)
2	このままの状況では三学会とも先細りなることが予想され、心配だ。	53
3	結果的に、繊維学会で否決されたが、協力できることは協力しあうことを検討したらどうか。	53

【解説】

多くの会員が、当学会のみならず、繊維系学会の存続や活動縮小のリスクについて少なからず不安を抱いており、統合が成立しなかったことによって不安解消に至らなかったことへの影響は相当に大きい。一方、統合案が成立しなかったものの3学会が連携を模索することで、引き続き学会としてこの課題に取り組んでほしいとの前向きな期待感は依然として多く存在する。

3. 学会の現状について

(1) 質問

本学会の現状や取組について、皆様のお考えに近しいもの、賛同できるものを選択してください。

(2) 結果の概要と詳細

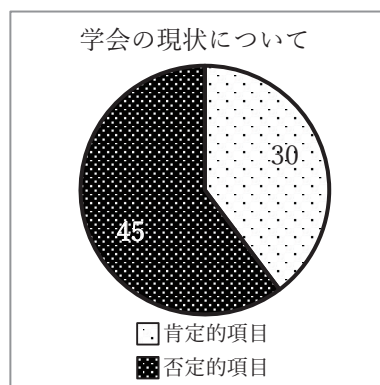
研究者数及び会員数の減少を懸念する「テキスタイルを主体とする大学教員ならびに研究者の人数変化（減少）は避けて通れないと考えている。」「会員の減少が心配である。」と、今後の学会運営に対して「年次大会では毎年多くの人に参加するなど、アクティブに活動できている学会なので、まずは、粛々と今まで通り運営していけばよい。」とする意見が約半数を占めた。

項目	選択割合
テキスタイルを主体とする大学教員ならびに研究者の人数変化（減少）は避けて通れないと考えている。	52%
会員の減少が心配である。	50%
年次大会では毎年多くの人に参加するなど、アクティブに活動できている学会なので、まずは、粛々と今まで通り運営していけばよい。	49%
これまでの活動に加え、新たな活動（学生会・SDGs委員会発足、大阪・関西万博パートナー登録）など日本繊維機械学会の活動が活性化しているのが嬉しい。	39%
日本繊維機械学会は、国際会議（Textile Research Symposium）を毎年開催している。このような学会は他にはなかなかないので、続けてほしい。	35%
弱い部分（JTE Journal of Textile Engineering（日本繊維機械学会の論文誌）の投稿数など）の強化、IF（インパクトファクター）取得への努力をしていかなければならない。	33%
他学会と比較して、この学会はこじんまりとしているが、多くの方が参加していると思う。少数精鋭で大変だが、弊会単独での充実を目指せばよい。	16%
インパクトファクターは必要とは思わない。	10%
該当なし	1%

【概要】

全8項目の選択肢のうち、本学会の現状について肯定的な内容を表す5項目を「肯定的項目」、課題や懸案を表す3項目を「否定的項目」として分類すると、

各分類の平均選択割合は、それぞれ30%、45%であった。



【詳細】

① 肯定的項目

選択肢中順位	肯定的項目	選択割合 (%)
3	年次大会では毎年多くの人に参加するなど、アクティブに活動できている学会なので、まずは、粛々と今まで通り運営していけばよい。	49
4	これまでの活動に加え、新たな活動（学生会・SDGs委員会発足、大阪・関西万博パートナー登録）など日本繊維機械学会の活動が活性化しているのが嬉しい。	39
5	日本繊維機械学会は、国際会議（Textile Research Symposium）を毎年開催している。このような学会は他にはなかなかないので、続けてほしい。	35
7	他学会と比較して、この学会はこじんまりとしているが、多くの方が参加していると思う。少数精鋭で大変だが、弊会単独での充実を目指せばよい。	16
8	インパクトファクターは必要とは思わない。	10

【解説】

現在の活動状況、特に年次大会、最近の新たな取り組み、国際会議の継続には、総じて肯定的な意見が多い。一方、今後も小規模で活動を続けていくことやIFを目指さずにジャーナルを出版し続けていくことについては、必ずしも賛同が得られていない。

② 否定的項目

選択肢中 順位	否定的項目	選択割合 (%)
1	テキスタイルを主体とする大学 教員ならびに研究者の人数変化 (減少)は避けて通れないと考 えている.	52
2	会員の減少が心配である.	50
6	弱い部分 (JTE Journal of Textile Engineering (日本繊維 機械学会の論文誌)の投稿数な ど)の強化, IF (インパクトファ クター)取得への努力をしてい かなければならない.	33

【解説】

本学会の最も大きな課題は大学教員ならびに研究者の減少とこれに関連した会員の減少だと捉えられている。

4. 本学会の今後について

(1) 質問

本学会の今後について、皆様のお考えに近いもの、賛同できるものを選択してください。

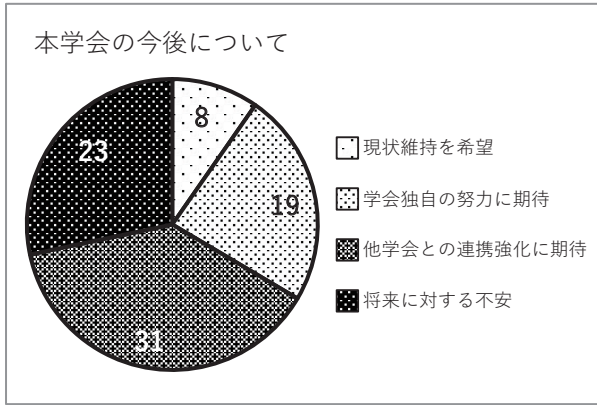
(2) 結果の概要と詳細

項目	選択割合
当初の目的が、日本繊維製品消費科学会との統合により達成できる見込みがあれば、二学会の統合を検討していくものありではないか.	43 %
他学会と交流することで、新しい研究テーマが出てくるのではないか.	43 %
他学会との交流を活発にしてほしい.	43 %
繊維 One チームとして、やはり三学会の一法人化を目指すべきである.	39 %
日本繊維製品消費科学会でも統合について承認された、仕切り直しをして、二学会で新たなことを模索するのもよいのではないか.	38 %
統合検討会議で培われた他学会との交流は継続してもらいたい.	36 %
フランクに今後の繊維業界としてどうあるべきか議論する場が必要である.	33 %
繊維業界のことを考えれば、論文誌など複数の学会で一緒にできることはできるような姿勢を維持するべきである.	31 %

この日本繊維機械学会が今後どうしていくのか、不安をもっている.	29 %
相互理解の一助として、イベントの共催から始めていけばどうか.	28 %
何か新しいことを行うには、若手や学生の意見を入れていけば、新しい切り口が見えてくるのではないか.	27 %
各カテゴリーの進化、深化が必要ではないか.	23 %
他学会会員の皆様との意見交換 (国際交流、論文誌、催事など)を行う場が必要だと思う.	19 %
学会として、産業界の意見、公設試の意見を別個に聞くべきである.	19 %
学会の運営に効率化の検討が必要になる.	17 %
今後の学会の在り方について早くお知らせしてほしい.	17 %
日本繊維機械学会として新しいこと (サロン、新研究会の設置、将来構想検討委員会の設置)など新たな打ち手が必要である.	15 %
三学会統合のために立案されたビジョンに対して日本繊維機械学会単独でも進めばよい.	14 %
三学会統合のために作成されたアクションプランを日本繊維機械学会単独でも是非進めてほしい.	14 %
日本繊維機械学会は、現在でも幅広い活動が行えているので、粛々と今まで通り活動を継続するだけでよい.	13 %
繊維学会でも多数の賛成票はあった。繊維学会と二学会での統合を検討してはどうか.	13 %
本会に参画している側の意識を上げる必要がある.	12 %
日本繊維機械学会の活動をもっと二学会 (繊維学会、日本繊維製品消費科学会)に見えるようにするべきと思う.	10 %
各学会の文化が違いすぎ、数年のうちに統合を再検討することには反対である.	2 %
該当なし	1 %

【概要】

全 24 項目の選択肢のうち、本学会の今後について「現状維持を希望 (2 項目)」、「学会独自の努力に期待 (9 項目)」、「他学会との連携強化に期待 (11 項目)」、「将来に対する不安 (2 項目)」に分類すると、各分類の平均選択割合は、それぞれ、8%、20%、31%、24%であった。



【詳細】

① 現状維持を希望

選択肢 中 順位	現状維持を希望	選択割合 (%)
20	日本繊維機械学会は、現在でも幅広い活動が行えているので、粛々と今まで通り活動を継続するだけでよい。	13
24	各学会の文化が違いすぎ、数年のうちに統合を再検討することには反対である。	2

【解説】

本学会に対して現状維持を望む会員は少ない。

② 学会独自の努力に期待

選択肢 中 順位	学会独自の努力に期待	選択割合 (%)
7	フランクに今後の繊維業界としてどうあるべきか議論する場が必要である。	33
11	何か新しいことを行うには、若手や学生の意見を入れていけば、新しい切り口が見えてくるのではないかと。	27
12	各カテゴリーの進化、深化が必要ではないかと。	23
13	学会として、産業界の意見、公設試の意見を別個に聞くべきである。	19
15	学会の運営に効率化の検討が必要になる。	17
18	日本繊維機械学会として新しいこと（サロン、新研究会の設置、将来構想検討委員会の設置）など新たな打ち手が必要である。	15
18	三学会統合のために立案されたビジョンに対して日本繊維機械学会単独でも進めばよい。	14

18	三学会統合のために作成されたアクションプランを日本繊維機械学会単独でも是非進めてほしい。	14
22	本会に参画している側の意識を上げる必要がある。	12

【解説】

3学会での統合や連携強化への意見に比べると、本学会内での努力を期待する意見は相対的に少ない。ただし、繊維産業のあり方の議論、要望を吸い上げる役割に期待する意見がある。また若手や学生会員に期待する意見が多く見られた。

本学会が、統合に向けて立案したビジョン、アクションプランを当学会が単独で進めていくことについて必ずしも多くないが一定数の期待がある。

③ 他学会との連携強化に期待

選択肢 中 順位	他学会との連携強化に期待	選択割合 (%)
1	他学会との交流を活発にしてほしい。	43
1	他学会と交流することで、新しい研究テーマが出てくるのではないかと。	43
1	当初の目的が、日本繊維製品消費科学会との統合により達成できる見込みがあれば、二学会の統合を検討していくのもありではないかと。	43
4	繊維 One チームとして、やはり三学会の一法人化を目指すべきである。	39
5	日本繊維製品消費科学会でも統合について承認された。仕切り直しをして、二学会で新たなことを模索するのもよいのではないかと。	38
6	統合検討会議で培われた他学会との交流は継続してもらいたい。	36
8	繊維業界のことを考えれば、論文誌など複数の学会で一緒にできることはできるような姿勢を維持するべきである。	31
10	相互理解の一助として、イベントの共催から始めていけばどうか。	28
13	他学会会員の皆様との意見交換（国際交流、論文誌、催事など）を行う場が必要だと思う。	19
20	繊維学会でも多数の賛成票があった。繊維学会と二学会での統合を検討してはどうか。	13

23	日本繊維機械学会の活動をもっと二学会（繊維学会，日本繊維製品消費科学会）に見えるようにするべきと思う。	10
----	---	----

【解説】

多くの会員が，他の学会との統合，および連携強化を望んでいる。特に，会員の交流促進と研究活動の活性化を期待して，他学会との統合を望む意見が多数を占めた。3学会の統合を望む意見は多く，日本繊維製品消費科学会との2学会統合を期待する意見も同様に多い。一方で，繊維学会との2学会統合を期待する意見は少ない。

また，催事や活動の一部で連携強化を望む意見が多く見られたことから，統合に向けた具体的な行動への期待が読み取れる。

④ 将来に対する不安

選択肢中 順位	将来に対する不安	選択割合 (%)
9	この日本繊維機械学会が今後どうしていくのか，不安をもっている。	29
15	今後の学会の在り方について早くお知らせしてほしい。	17

【解説】

日本繊維機械学会の将来に関して，不安をもつ会員が多い。

5. まとめ

今回のアンケートにご回答いただきましたのは一部の方ですので，会員の皆様のご意見を調査できているわけではありません。ただ，日本繊維機械学会では，臨時総会におきまして，会員の皆様に3学会の一法人化に対してご承認をいただいたことを踏まえ，今後，繊維系の他学会と対話を継続し，連携さらには統合の検討を行っていきたいと考えています。また，学会のあり方について議論を重ね，理事会として対応してまいります。日本繊維機械学会の伝統を礎とし，来るべき社会において繊維並びに繊維機械に関する学術・技術の役割を位置づけられる存在であり続けるために必要な改革に取り組んでいく所存です。

他学会との連携，将来的な統合を検討するにあたり，その内容が実のあるものになるためには，各学会それぞれの取り組みが骨組みとなって活かされることになるのは間違いありません。現段階で，できることといたしまして，本学会が会員の皆様にとってさらに魅力的で，お役に立てる満足度の高い学会となりますよう，一層の努力を重ねてまいりますので，変わらぬご指導，ご支援を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます。